富田林市指定文化財　第２号

廿山南古墳出土遺物

【名称】　廿山南古墳出土遺物（つづやまみなみこふんしゅつどいぶつ）

【員数】　一括

【種別】　考古資料

【内訳】　鉄製大刀１点・鉄製刀子１点・鉄鏃４点、鉄製絞具２点、鉄製品一括、金環１点、
碧玉製管玉14点、琥珀製棗玉15点、ガラス製小玉３点、重層ガラス玉18点、
ガラス製品一括、須恵器28点、須恵器片一括、土師器１点、土師器片一括

■廿山南古墳とは

廿山南古墳（図1）は、6世紀前半（古墳時代後期）に造られた直径約 22mの円墳です。 市域を縦断する石川の西岸には羽曳野丘陵があり（写真1）、 平地を見下ろす高所にさまざまな古墳が造られていたことが分かっています。 この古墳は、 2001（平成 13）年に身体障がい者療護施設の建設に伴う試掘調査で、 初めて発見されました。 現在、 古墳は残念ながら残っていませんが、 詳しい記録を残すための発掘調査を行ったことで、 全貌が明らかになりました。

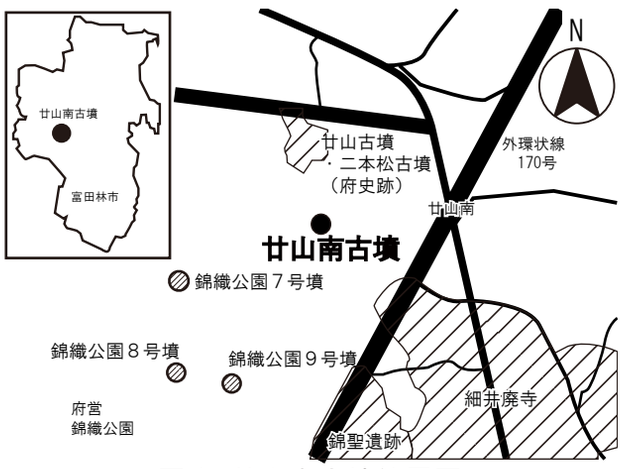

図１　廿山南古墳位置図

■埋葬時のままの状態の副葬品

古墳の頂上には、 地域の有力者と考えられる人物が副葬品とともに埋葬されていました（図2）。 穴を掘り、木棺を据えて埋め戻すタイプの埋葬施設でしたが、

写真１　発掘調査当時の廿山南古墳遠景
（中央の木が無い部分が古墳。北西から撮影。）

棺や人骨は残っていませんでした。 棺の中央部分には赤色顔料がみられ、 付近には碧玉（へきぎょく）や琥珀（こはく）、 ガラスなどさまざまな材質の玉が散らばっていました（写真2）。 中でも重層ガラス玉は、西方アジアからもたらされた希少なものです。 また、金環（金製の耳飾りもしくは指輪）や鉄製の大きな刀も見つかりました。 棺の外と思われる場所では、 鉄製の鏃（矢じり）や刀子（小刀）、 須恵器、 土師器が見つかりました。 また、 棺を埋め戻す途中や、 埋め戻した後にも須恵器を置いていたことが分かりました。

古墳は後の時代に乱掘を受けていることがほとんどですが、 廿山南古墳では副葬順序や位置が分かる状態で保たれており、重要な成果が得られたといえます。

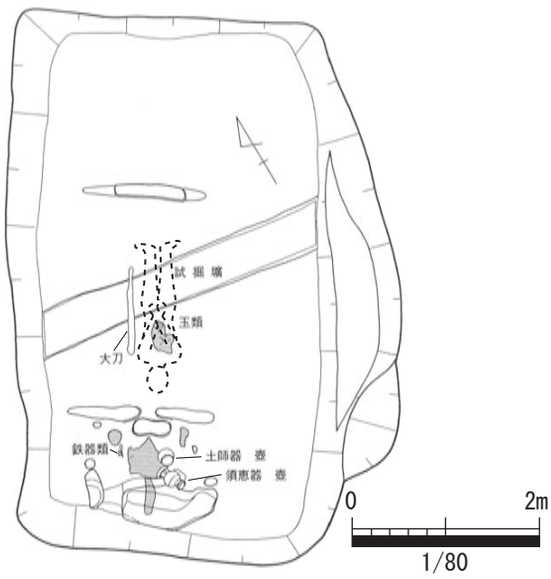

図２ 埋葬状況

写真２ 石製玉類・ガラス製玉類・金環

■廿山南古墳の重層ガラス玉

副葬品で特に注目されるのが、 18 点以上見つかった重層ガラス玉です。 直径3ミリ前後と非常に小さく、最大で7つの連珠状となっています（写真3右）。 内部は2層構造で、 金属の箔を貼り付けた細いガラス管に太いガラス管をかぶせてから、 工具でくびれを入れています。 国内での重層ガラス玉の出土例をみると、太形から細形まででさまざまな径のものがありますが、廿山南古墳のものは最も細形で、 類例の少ないものと言えます。 また、 一つの古墳からの出土量としては突出しています。 2016（平成 28）年に、 奈良文化財研究所と共同で科学分析を行ったところ、 内部

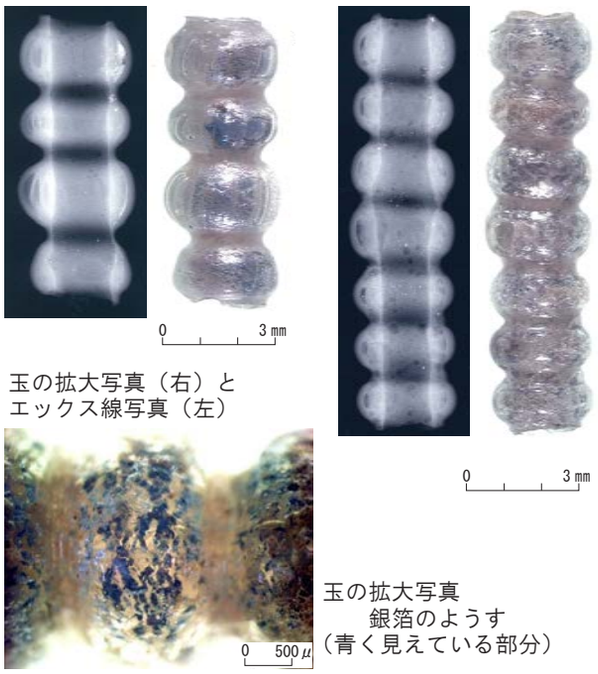

写真３ 重層ガラス玉

の箔が銀箔であることや（写真3下）、 シルクロードを通ってもたらされた西方アジア（西アジアでも東寄りから中央アジアにかけての地域）産の玉であることが分かりました。 詳細な科学分析で産地を絞り込めたことにより、 その価値はさらに高まったといえます。

■古墳が伝えるもの

廿山南古墳は、 古墳の規模だけを見ると決して大きいとはいえませんが、 羽曳野丘陵上でこの時期に造られた古墳としては唯一といってよい存在です。 得られた調査成果には、 当時の葬送儀礼や対外交流を知るうえで、 多くの情報量が含まれています。 本市ではこれらの貴重な資料を後世に伝えるため、 2020（令和2）年3月 30 日に市指定文化財第2号として指定しました。

富田林市文化財リーフレット ２

富田林市指定文化財第2号
廿山南古墳出土遺物

発行年月 令和3年3月
編集発行 富田林市教育員会
〒584-8511
富田林市常盤町１番１号
TEL(0721) 25−1000（代表）